

<報告・記録>

幼児期における表現力構築への試み

— Attempt to build expressiveness in early childhood —

黒田 宣代 ・ 徳留 勝敏

東亜大学 人間科学部 心理臨床・子ども学科
kurodan@toua-u.ac.jp ・ tokudome@toua-u.ac.jp

キーワード：表現力／幼児教育／音楽療法／フィールド調査／音楽アウトリーチ

1. 研究の目的

本研究は、「幼稚園教育要領」(平成29年告示)ならびに「保育所保育指針」(同年告示)における「表現」についての「ねらいおよびその内容」において示されたものを感じ得て行わせるための探究を目的としている。内容としては、音楽を通して培われると思われる豊かな感性ならびに想像力や表現力を如何にして構築させていくのかを幼稚園・認定こども園・保育園の生活において見つめていくものである。

そこで、本研究では今回、ある幼稚園ⁱをフィールドとして、そこに在籍する園児を通じて、音楽という領域での表現力構築を見つめることにした。

期待される成果としては、子どもが日常より音楽(BGM)に慣れ親しむことにより、どのような反応を見ることが出来るのか。また、自然に音楽に興味を持ち、楽器を用いて演奏したいという動機付けなどが育つのか等を抽出できると予想される。そして、得られた情報により、幼児たちの表現力や創造力構築への足掛かりをつかむことが可能となり、豊かな情操教育への具体的研究手法の道筋が見えると期待できる。

また、幼稚園という教育環境下で働いている教諭らが音楽という一表現力について、どのような見解を持ち得ているのかの情報についても詳しく抽出できると推察される。

2. 研究調査方法

本研究における調査方法は、対象をある幼稚園に在籍する園児とした、ショートスタンスの観察法である。その方法は、まず初めに園内にてある一定の時期、音楽をBGMとして流し、幼児の反応を見る。その後、BGMが園児に定着してきた頃、今回の調査では、およそ1ヶ月半頃に園内で音楽コンサートを開き、その時の園児の表現力等を観察するという方法である。ここでの観察者は、園で働く幼稚園教諭ⁱⁱならびに実習生ⁱⁱⁱとし、それらの観察により、アンケート調査と聞き取り調査によりデータを抽出するという方法である。

2-1. 調査方法——そのI (BGM効果)

調査方法としては、まず、そのフィールド環境において、具体的には、適当と思われる複数のタイミング(予想されるタイミング:登園時、遊んでいる時間、おやつ時間、食事時間など)で選曲された数曲のBGM音楽をCD等で流す等の試みを習慣化することで、子どもらの行動にどのような変容が生じるかを見つめる。

そこで、今回は、A幼稚園でのお昼の給食時間を利用して、以下の音楽をBGMとして約1か月半程度^{iv}、流してもらった。

①バッハ作曲「主よ人の望みと喜びよ」、②モーツァルト作曲「トルコ行進曲」、③シューマン作曲「トロイメライ」、④ショパン作曲

「子犬のワルツ」、⑤ドビュッシー作曲「月の光」のピアノ曲、計5曲である。また、その演奏時間は、25分程度である。

選曲においては、音楽環境として、豊かな響き（和音）とリズムと旋律があることを重視し、あえて子ども向けの曲目とはしなかった。そして、上述の5曲を入れたCDでリピート機能を使い、園児の活動、先生方の指導の邪魔にならない音量で平日の昼食時間に流すこととした。

そして、この音楽（CD）を流す期間における園児の反応において、園内の教諭にアンケート調査を実施し、具体的な園児の行動などについて、観察者（園内の教諭）の自記式における調査結果の抽出を試みた。

さらに、実習生2名に、CD（音楽）が流れている時間の児童の様子を観察してもらい、日々記録してもらった。その後、聞き取り調査を実施し、質的データを抽出した。

2-2. 調査方法——そのⅡ（音楽会開催）

次に、CDを使っての音楽環境がおおむね2か月を経過した時期に、CDに使用した同じ曲目のプログラムで音楽会^vを行った。これは、音楽環境作りでCDによるBGMで使用した音楽を幼児がピアノによる生演奏を通して、どのような反応を示すのかを観察しようとするものである。その後、音楽会での園児たちの様子、反応を当日アンケートにより先生方に回答していただき、そのデータを抽出した。

2-3. アンケート内容とその結果（BGM効果）

まず、今回、調査先のA幼稚園内の教諭にアンケートを自記式にて実施し、その後、留め置きとし、シートは後日回収するという流れで実施した。今回、回収した調査シートは17サンプルということで、今回の調査は、量的調査というよりも質的調査の意味合いが強い。したがって、主に質的データを見つめていきたい。

まず、アンケートの質問は以下の通りである。

2-3-1. アンケートの質問（BGM効果）

【問1】 昼食時のBGMに対して、園児に反応が見られましたか。（1つのみ回答）

- ほとんどの園児が興味を示さなかった。
- ごく一部の園児だけが興味を示した。
- 一部の園児が興味を示した。
- 割と多くの園児が興味を示した。
- 約半分ぐらいの園児が興味を示した。
- ほとんどの園児が興味を示した。
- その他

【問2】 興味を持った園児はどのような反応をしていましたか。（複数の回答可）

- 初めて聞いた時、驚きなど何がしか反応が見られた。
- 音楽に耳を傾けている様子が見られた。
- 身体など使って拍子をとっていた。
- ピアノを弾く真似をする園児がいた。
- 鼻歌などで表現しようとする園児がいた。
- 曲名を質問する園児がいた。
- 曲の感想を表現する園児がいた。
- 曲の中の好きな曲を主張する園児がいた。
- ピアノを弾いてみたいと主張する園児がいた。
- この曲を弾いてみたいと主張する園児がいた。
- 昼食時以外にも鼻歌などで歌うなどの反応が見られた。
- その他

【問3】 昼食時の音楽環境を作ることでの問題について。（複数の回答可）

- 園児の昼食時のマナーが悪くなった。
- 園児が食事をする時間が長くなった。
- 食事を残す園児が増えた。
- 昼食時のおしゃべりが多くなった。
- 昼食の準備と後かたづけに悪い影響が見えた（時間がかかるようになった等）。
- 食事に落ち着きが無くなった（音楽を聴き食事が遅くなった等）。
- 特に問題は無かった。
- その他

【問4】 昼食時に音楽を流すことについて。

(1つのみ回答)

- 昼食時に音楽を流すことは適当ではない。(やめた方がよい)
- 昼食時に音楽を流すことは特に問題なく良いと感じる(どちらかという流した方がよい)
- 昼食時に音楽は積極的に流した方がよい。(行った方がよい)
- 昼食時に音楽を流しても流さなくてもどちらでもよい。
- その他

【問5】 特に印象に残ったことや問題になったことがあれば、自由にお聞かせください。

【問6】 このような工夫があれば良かったなど、ご要望があれば自由にお聞かせください。

以上の6問である。

2-3-2. アンケートの結果 (BGM 効果)

まず、問1:「昼食時のBGMに対して、園児に反応が見られましたか」(SA)についての回答は、17の回答中、10名の教諭が「割と多くの園児が興味を示した」と答え、次に「ほとんどの園児が興味を示した」、「一部の園児が興味を示した」がそれぞれ3名で、「約半分の園児が興味を示した」が1名となった。

問2:「興味を持った園児はどのような反応をしていましたか」(MA)については、すべての項目に回答があり、結果として、ほとんどの児童に身体を通した表現力があつたというデータを得られた。

問3:「昼食時の音楽環境を作ることでの問題について(MA)」では、「特に問題はない」という回答がほとんどであった。

問4:「昼食時に音楽を流すことについて」(SA)は、「昼食時に音楽を流すことは特に問題なく良いと感じる(どちらかという流した方がよい)」という回答が一番多く9名、次に「昼食時に音楽は積極的に流した方がよい」が4名、「昼食時に音楽を流しても流さなくても

どちらでもよい」、「その他」がそれぞれ2名であった。「その他」の回答は、「音楽のジャンルや音量による」という記述であった。

問5の子どもの様子としての自由記述については、そもそものサンプル数が少なく、内容的には同様の記述もみられたため、こちらである程度まとめたものを以下に記す。

- 曲のリズムに合わせて身体を動かす、口ずさむ、鼻歌を歌いだす等の子どもがいた。
 - 「この曲知っている」・「この曲聞いたことがある」と先生や友達に伝えた。
 - 先生が曲を流すのを忘れると、かならず、子どもから「曲かけて!」と催促があつた。
 - 曲を聴いただけで、曲名を言い当てる子どもが数人いて驚いた。
 - テンポの速い曲「トルコ行進曲」への反応が良く、体を動かす姿が見られた。また、その曲を今か今かと待ちわびた様子が見られ、曲が流れると子どもの表情が嬉しそうだった。
 - ゆったりとした曲の時は、あまり反応がみられなかった。
 - 「トルコ行進曲」が流れるとなぜか笑いがでる子どもがクラスで常時5人ほどいた。特に年齢の低い子どもにその様子が見られた。
 - 音楽が流れているだけで、空気が温かい感じになってよかった。
- 問6の自由記述については、今回の昼食時のBGMとして音楽を流すということへの工夫や要望について以下のような教諭の意見を頂いた。問5同様にこちらである程度まとめたものを記すことにする。
- 曲の幅を広げ、クラスごとに内容をローテーションで変える方法もよいのではないか。
 - アップテンポの曲は子どもが楽しすぎて、落ち着いて食事ができないこともあつた。スローテンポとアップテンポのTPOを考えるとよいのではないか。
 - 今回は、ピアノ曲ばかりだったので、今後はオーケストラの曲も入れたらよいと思う。
 - 食事の時間=音楽の時間という感覚で子どもたちが捉えてきたような気がした。

2-4. アンケート内容とその結果（音楽会開催）

次に第2弾のアンケート調査として、BGM音楽を園児が慣れ親しんだ時期に、園内で音楽会を開き、子どもの実態調査を実施した。この会では、生のピアノ演奏を行い、音楽会での園児たちの様子、反応を先生方に自記式でアンケートとしてお願いし、データを抽出した。以下は、その質問である。

2-4-1. アンケートの質問（音楽会開催）

【問1】実際の演奏を聴いた園児の興味はどのようなものでしたか。（1つのみ回答）

- ほとんどの園児が興味を示さなかった。
- ごく一部の園児だけが興味を示した。
- 一部の園児が興味を示した。
- 割と多くの園児が興味を示した。
- 約半分ぐらいの園児が興味を示した。
- ほとんどの園児が興味を示した。
- その他

【問2】実際の演奏を聴いた園児はどのような反応をしていましたか。（複数の回答可）

- 知っている曲を聴いたことに何がしか反応が見られた。
- 実際の楽器（ピアノ）の音による演奏に興味を示した様子が見られた。
- 実際に演奏している姿を見て興味を示した様子が見られた。
- 大人が演奏する音楽会の雰囲気に興味を示した様子が見られた。
- 演奏する曲目によって異なる反応が見られた。
- プログラムの曲名を紹介して（知っている曲だ）期待感のような反応が見られた。
- いつも聴いている曲であったが楽器での演奏に新鮮さを園児は感じていた。
- いつも聴いている曲で特に反応はなかった。（飽きてきた様子が見られた。）
- その他

【問3】音楽会の終了後の園児の様子はどのようなものでしたか（複数の回答可）

- 疲れた様子で興味が薄かった。
- 特に変わった様子はなかった。

演奏の感想を示していた（園児同士、または先生へ音楽会の感想を伝え合っていた）。

ピアノを弾いてみたいとピアノに興味を示していた。

〇〇の曲を弾いてみたいと曲目に興味を示していた。

別な曲も聴きたいと音楽に興味を示していた。

その他

【問4】昼食時に音楽を流し、同じプログラムで音楽会を行ったことについて（複数回答可）

昼食時の音楽（BGM）、音楽会も園児にとって、あまり効果はなかった。

長い期、間昼食時の音楽（BGM）を流し、園児は飽きていた。

耳慣れた曲を実際の楽器の演奏で聴くことの反応は大きかった。

音楽会の時間は長いと思う。

音楽会の時間は短いと思う。

音楽会の時間はちょうど良いと思う。

その他

【問5】今回の音楽会は、音楽アウトリーチの活動でもあります。音楽アウトリーチについてご回答ください。

音楽アウトリーチとは、演奏会やコンサートに出かけていくのではなく、演奏家が幼稚園などの会場に出かけて演奏を行い、音楽教育普及と音楽普及を目的とした活動の事です。学習指導要領改訂（1998年）をきっかけに小学校、幼稚園などで活動が少しずつ始まっています。

幼稚園にとって音楽アウトリーチの活動は、あまり必要を感じない。

幼稚園にとって音楽アウトリーチの活動の機会が合った方が良い。

• その場合できれば、年1回 年2回
年3回 年4回 年5回、以上
行うのが良い。

• 音楽アウトリーチ活動としての音楽会にかかる適切な時間はどのぐらいが適当と思われるか。

30分以内 40分程度 50分程度

□1時間程度 □1時間以上

【問6】特に印象に残ったことや問題になったこと、またご要望があれば自由にお聞かせください。

2-4-2. アンケートの結果（音楽会開催）

まず、問1：「実際の演奏を聴いた園児の興味はどのようなものでしたか」（SA）についての回答は、13の回答中、「ほとんどの園児が興味を示した」との回答が一番多く、6名。次に「割と多くの園児が興味を示した」が5名、「約半分ぐらいの園児が興味を示した」が2名となった。

問2：「実際の演奏を聴いた園児はどのような反応をしていましたか」（MA）については、「知っている曲を聴いたことに反応」、「実際の楽器（ピアノ）の音による演奏に興味」、「実際に演奏している姿を見て興味」を示した様子が見られた。

問3：「音楽会の終了後の園児の様子はどのようなものでしたか（MA）については、「演奏の感想を示していた（園児同士、または先生へ音楽会の感想を伝え合っていた）」という回答が13名中10名と一番多かった。

問4：「昼食時に音楽を流し、同じプログラムで音楽会を行ったことについて（MA）は、「耳慣れた曲を実際の楽器の演奏で聴くことの反応は大きかった」、「音楽会の時間はちょうど良い」という回答が大多数を占めた。

問5：今回の音楽会開催のような「音楽アウトリーチの活動」についての回答は、年1回から年2回で、1回の最適時間については30分もしくは40分という回答が多くを占めた。

問6については、音楽会開催について、教諭により特に印象に残った問題や要望についての自由記述をこちらである程度まとめたものを以下に記すことにする。

- ・今回の体験は、子どもらの五感を通してすべての感覚にいきわたっていたと思う。
- ・指の動きやピアノを弾く真似をする子、曲のイメージを言う子等、子どもたちの興味深い様子が見受けられた。
- ・音楽アウトリーチでは、クラシック以外の

曲も演奏していただくと子どもも喜ぶと思う。

- ・字が読めない子ども（低年齢）がいるので、曲目を一つ一つ紹介していただくと良い。
- ・子どもたちが歌える曲があればよかった。
- ・曲名、例えば「子犬のワルツ」では、子どもから「ワンちゃんが走っているみたいでかわいい」とか、「月光」では「ちょっと暗いイメージ」や「お月様みたいに優しい」といった、子どもなりの想像力を引き出し、感性の成長に繋がった。
- ・ピアノの鍵盤に触れ、指を動かしているところをもっと見たかったという子どもの声があった。
- ・知っている曲が演奏されると目を輝かせて喜んでいる姿（年長児）が見られた。

2-5. 実習生の観察による調査

今回の調査は、本学（東亜大学）、2名の学生の幼稚園実習期間を通じて、同時進行で研究調査を進めた。したがって、実習期間である20日間において各実習生に観察ノートを毎回、記述してもらい、その後その内容を聞き取り調査という手法にて、こちらでまとめた。以下はその結果である。

2-5-1. 聞き取り調査結果

実習生の観察眼を通した調査結果を上述した本研究のアンケート調査に照らして聞き取り調査を実施した。その結果、その内容のほとんどが幼稚園教諭のアンケート調査結果と変わらないものであったことがわかった。

また、この2名の実習生の他に、本学科の保育・教育コースの数名の学生に、幼稚園での演奏会に出席してもらった。それらの学生には、演奏会での子どもの様子を後で聞き取り調査した。その結果、これもほぼ、幼稚園教諭によるアンケート調査結果と変わらないものとなった。

3. 調査方法の総括（省察）

今回のアンケート調査は、どちらかと言え

ば、プレアンケートと言え、アンケートの前段階ものと位置付けられる。したがって、今後、改善したほうが良いと思われる箇所も少なくない。

例えば、アンケートの質問には、シングルアンサー（以下SA）とマルチプルアンサー（以下MA）を設けたが、MAでは、焦点の輪郭がぼやけ、観察後のキーワードが抽出づらいことが少なくなかった。さらに、似通った質問が少なくなき、回答者を惑わせるような結果となったように思われる。

したがって、今後は、もう少し焦点を絞って、明確な仮説を導くためのアンケートの作成に心がけたい。

4. 本調査研究のまとめ

本研究では、音楽CDによる音楽環境を構築し、その後、音楽会を催し、園児の様子や変化を見てきた。結果として、お昼の給食時のBGMと後日、実施された演奏会では、たくさんの子どもの表現反応を見て取ることが出来、さらに幼稚園教諭による有意義な情報も獲得できた。結果、聴力にアピールする音楽環境を整えることが幼児の成長にどのような影響を与えられるのか、また、その表現力を構築するためにどのような手法が必要なのかのキーワードを抽出することができた。

5. 考察と今後の展望

音楽を通して、子どもの育ちを考えていく上では、感性や情動と言ったものが照射される。しかし、同時にまた人間社会で育つという観点から、そこには「言葉」という育ちも必要となる。

今回の研究調査においては、その「言葉」に関しての視点を取り入れず、ピアノ楽器を介した感性のみという音楽表現に焦点をあて、幼児の反応を見つめてきた。ゆえに、幼稚園教諭のアンケート回答で指摘があったように、子どもが歌える歌を導入することを失念してしまった。今後は、「歌」という「言葉」を介した表

現力も加味した上で研究調査を続けていきたいと考える。

さらに、演奏が簡易で興味を引き出す音を出すことのできる創作楽器、例えばエアコーク^{vi}を作って、作成後にそれらを使用しながら、演奏の体験を行うという身体を通じた体験も必要であろうと考える。これらは、経費的に負担にならない材料で製作することができるという点で有利である。

また、今後、アウトリーチとして、BGM音楽を含んだプログラムで小コンサート活動も積極的に進めてみたいと考える。今回の調査では、聞き覚えのある曲を子どもらが生の音（今回はピアノ）での演奏に接することで、子どもの表現力に目覚ましいと思われるデータが抽出され、その効果をあらためて痛感できた。したがって、子どもが身近で音楽的な感覚を楽しく表現し、創造力を発揮する機会が可能になるように、今後も取り組んでいきたい。

音楽は、「言葉」同様に一コミュニケーションツールであり、幼児の表現能力育成に重要な意味を持つといえる。音楽を聴くという行為が歌ったり、身体を動かしたりと、言語的・身体的活動として発達し、かつまた対人関係とのツールとして社会的、精神的な発達——音楽療法としても効果のあるもの——となって育つということを念頭に掲げ進めていきたい。

6. 参考文献

- 厚生労働省、2017年『保育所保育指針（平成29年告示）』フレーベル館。
- 文部科学省、2017年『幼稚園教育要領（平成29年告示）』フレーベル館。
- 内閣府、2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』フレーベル館。

7. 付記

本報告は、令和2年度 中・四国保育士養成協議会教職員研究費助成（研究代表者：黒田宣代）を受け、調査研究を実施することができた。

末筆ながら、中・四国保育士養成協議会にて

研究助成を頂けたこと、この場をお借りして感謝の意を表したい。

注

- i 下関市内にあるカソリック系の幼稚園。3歳・4歳・5歳児の園児総数は、約98人。クラス編成は、バラ組男子13名・女子11名、計24名、すみれ組男子12名・女子13名、計25名、きく組男子13名・女子12名、計25名、うめ組男子11名・女子13名、計24名で年齢混合の縦割り教育。
- ii 今回の調査では、園内の幼稚園教諭（クラスの担任・副担任等）のほかに、実習生2名にも同時期に観察調査をお願いし、後日、幼稚園教諭の方には、アンケート調査（留置き式）を実施。実習生2名には、聞き取り調査を実施した。
- iii 実習生は本学3年のOさんとSさん。ともに21歳の女子学生。
- iv 開始時期：2020年9月26日～12月16日までの平日のみ（約1ヶ月半）。
- v 開演日時：2020年12月17日（木曜日）。開演時間は、午前11時～11時40分。場所は、A幼稚園講堂。参加者は園児、幼稚園教諭、本学（東亜大学）学生数名。内容は、園内の給食時にBGMとして流した曲のピアノ演奏会。ピアノ演奏者は、徳留勝敏（東亜大学人間科学部非常勤講師）。
- vi 創作楽器、エアコークについて簡単にその

材料と作り方を以下に述べておきたい。

—材料—

- 空のペットボトル（大、中、小）
- 自転車の虫ゴム
- 瞬間接着剤
- ビニールテープ
- 割りばし
- ティッシュペーパー
- ペットボトルの蓋

—作り方—

- ペットボトルの蓋に自転車の虫ゴムを入れるぐらいの穴をあけ、そこへ虫ゴムを入れる。
- 蓋にあけた穴は、空気が漏れないように接着剤で虫ゴムを固定させる。
- ペットボトルに自転車の空気入れを使用し空気を入れる。ペットボトルは強度を考え、炭酸飲料のものが良い。（大・中・小さいずれも必要）木琴のような並びも可能。圧力によって音程が変わる。
- 撥（バチ）は割りばしなどの棒の先にティッシュペーパー半分を丸めたものを付けビニールテープなどで巻き付け、ペットボトルの蓋2つを巻き付けた部分を挟み込むようにしてビニールテープで再び巻き付ける。